

奄美群島市町村長会長 殿

奄美群島成長戦略ビジョン懇話会  
座 長 原 口 泉

奄美群島成長戦略ビジョン総合評価（2014 年度～2023 年度）の提言について

本懇話会は、奄美群島成長戦略ビジョン懇話会規定第 2 条第 1 項 3 号の定めに基づき、下記のとおり、奄美群島成長戦略ビジョン及び基本計画の成果を検証し、提言を行う。

記

【各方策の成果検証】

1. 人材の確保・育成、教育

奄美群島においては、平成 26 年度より、人材育成成果発表会によって、奄美群島で新たにチャレンジしている人材を群島内外に発信する取組を実施されている。また、奄美群島固有の自然や歴史・文化に触れ合う機会を提供し、地域資源の保全と適正な管理を両立させたエコツーリズムの推進を図る為、エコツアーガイドの人材育成を実施しているほか、奄美群島地域通訳案内士の人材育成を実施している。国立公園指定や世界自然遺産登録を契機に、今後ますます観光客の増加が見込まれる中、このような人材を育成する取組は、今後の奄美群島の観光を推進するうえで重要である。

奄美大島においては、新規就農者の育成や作物の生産向上に対する助成、さとうきび産地化に向けた農家育成等、農家の人材育成に関する取組を実施している。また、ICT を活用したフリーランスや小規模事業者の支援、奄美インターンシップ補助金事業を実施し、雇用の拡大に取り組んでいる。さらに、移住者用住宅の購入・リフォームや、集落による空き家の改修への助成、離島留学制度を実施し、人材の確保・育成に取り組んできた。

引き続き、奄美群島の産業振興において中心的な役割を担う人材育成の取組に加え、奄美群島の将来を担う高校生など、若者の育成・確保に向けた取組にもより一層注力することを期待する。

2. 奄美群島の魅力の発揮

平成 29 年 2 月に奄美群島が国立公園に指定され、令和 3 年 7 月に奄美大島と徳之島が世界自然遺産登録を果たしたことから、その価値の維持・継続や、インバウンドを含めた入込客の増加などが見込まれる。そのような中、奄美群島においては、(一社)奄美群

島観光物産協会を中心に、各島観光協会等と連携して群島一体となった観光イベントや物産展を開催し、奄美群島の魅力と知名度向上を図るとともに、奄美群島の観光の方向性を示した「奄美群島観光しまづくりプラン」が策定された。今後も観光振興を推進することが重要である。

また、喜界島は、サンゴ礁が隆起してできた島であり、世界的にも稀な隆起速度を有する特異な地質・地形の成り立ちを有している。こうした自然特性に加え、歴史・文化や人々の暮らしに根差した地域資源を、保全・教育・観光の各分野に活用しながら持続可能な地域づくりを推進しており、令和7年10月6日には日本ジオパークに認定された。喜界島に興味のある島外出身者を対象に離島留学推進事業を実施し、喜界高校に3年間通いながら、サンゴ礁をはじめとする喜界島固有の自然や歴史、文化等を学び、交流促進を担う人材と産業振興に資する人材の育成の取組は今後も必要な取組である。

今後とも、物産展などを通して、豊かな自然や個性的な文化・特産品等の奄美群島固有の魅力を発信し、群島一体となった誘客促進を期待する。

### 3. 共生・協働の推進、交流・連携の強化

奄美群島では、チャレンジ人材育成事業により、群島内における新規起業や第二創業、事業拡大に取組む事業者が着実に増加しており、その取組の成果は評価できる。

また、移住情報発信事業において、都市部で開催される移住フェアに参加するとともに、移住体験ツアーやフリー滞在プログラムを実施することで、移住定住に繋げていることは評価できる。一方、近年増加傾向にある空き家の利活用については、各市町村独自の取組を実施しているものの、更なる利活用に向けて引き続き取り組むべきである。

徳之島においては、スポーツ合宿誘致や関連施設の整備、各種スポーツ教室の開催等を通じて、交流の促進、町民の健康増進を図る取組が実施されている。また、子どもから高齢者までが利用可能な遊具を設置し、子どもと高齢者の健康増進と地域コミュニティの活性化を図る取組を実施している。町民の健康増進及び世代間交流の促進において重要であることから、積極的な活用を図りたい。

今後とも、地域の活力維持・活性化に向けて、移住・定住を促進するため、市町村における受け入れ体制を充実させるとともに、群島内市町村が連携し、一体となった情報発信や移住相談の対応体制の充実を図ることを期待する。

### 4. 市場の拡大（ヒト・モノ・カネ・情報）

（一社）奄美群島観光物産協会においては、奄美群島の特産品の販路拡大やブランディング力の向上、知名度向上を目的として都市部で物産展を実施しており、奄美群島の特産品等の販路拡大に繋がるものと期待する。

また、沖永良部島においては、花き・野菜・果樹の生産額の向上を図るため、ハウス資材購入に係る費用を補助するとともに、鉄骨平張施設等の導入が進められている。これにより、スプレーギクやソリダゴの周年栽培が可能となり、夏場の台風時期も市場等への安定出荷が可能となることから、市場の拡大が期待される。また、自然観光資源を

活用したケイビングや農業体験を通して市場を新たに開拓するとともに、島の自然環境の保全と地域経済を豊かにする環境づくりにより、地域雇用の創出を期待する。

与論島においては、農林水産物等の地域資源を活用した加工品の生産者に対し、群島外への販路拡大や、新たな商品の開発を支援し、特産品の知名度の向上に取り組まれたい。

今後も、奄美群島の市場の拡大に関する施策については、群島の産業振興の発展による「稼ぐ力」の向上に繋がる取組として期待する。

これらを踏まえ、奄美群島成長戦略ビジョンの総合評価の提言を次のとおり示す。

## 【提言】

奄美群島では、平成 26 年度より「奄美群島成長戦略ビジョン」（以下「ビジョン」）の実現に向け、「基本計画・実施計画」を策定し、奄美群島振興交付金をはじめとする様々な財源を活用して、12 市町村が一体となった施策展開を進めてきた。これらの取組は、定期的な進捗評価（PDCA サイクル）を実施しながら改善と重点化が図られ、地域の課題解決と発展に向けた基盤形成に寄与してきた。

平成 29 年 2 月には奄美群島が国立公園に指定され、令和 3 年 7 月には奄美大島と徳之島が沖縄島北部や西表島とともに世界自然遺産に登録されるなど、自然と文化の価値が国内外から高く評価され、地域のブランディングにも大きく貢献している。

また、ビジョン策定から 10 年が経過し、奄美群島振興交付金を着実に活用することにより、条件不利性改善に関する事業や観光客の来訪及び滞在の促進等に関する事業支援を通じて、奄美群島の特性に応じた産業の振興や住民の生活の利便性の向上などで一定の成果が得られていると言える。

奄美群島 12 市町村は、限られた財源や人材の中で、国・県の支援も活用しながら戦略的に課題に対応し、成果を積み重ねてきたといえる。特に、群島としての一体的な取組と各島の個性を発揮する施策展開は、群島全体の価値向上に貢献し、国立公園指定や世界自然遺産登録などの実績にもつながった。

しかしながら、総人口や若年層の減少、農業や情報通信などの分野における停滞など、依然として克服すべき課題は多い。今後の「奄美群島成長戦略ビジョン 2033」においては、青少年の教育機会の充実や人材育成、再生可能エネルギーやデジタル技術の活用、沖縄との広域連携、域内経済循環率の向上などを視野に入れ、より統合的かつ持続可能な地域づくりを進めていくことが重要である。自然環境や文化を次世代に引き継ぎつつ、自立的かつ力強い奄美群島の実現に向けて、引き続き一体となった戦略的取組が求められる。

以上